

国際観光学科					
科目名: 海外インターン実習事前指導				担当教員 氏名: 藤本 幸男、米田 晶、齋藤 望、Victor Raquid Vibal	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 前期	専門科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのよ 過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、 うな授業を行っているか: 学生の成長に最も効果的な授業を行う。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
オーストラリアでのインターン実習の事前準備を行う。具体的には、多民族・移民国家オーストラリアの歴史・文化や観光先進国オーストラリアのインバウンド戦略を学ぶ、訪豪日本人観光客の現況を学ぶ、実習先の業務内容を事前に把握する、現地での指導社員体制、評価基準のほか生活、相談窓口等について知る(現地社員による)、自らがインターン実習の目標を考え、それぞれの指導教員と協議する中で最終目標を設定する(実習業務に関する目標・自己啓発に関する目標・現地生活に関する目標)、渡航準備、また日本の指導教員との定期連絡、緊急連絡手法の確認などを行い、万全の準備をする。 実習の目的は①人間的に成長する、②海外で働く経験をする、③英語力の強化、である。					準備、心構え、目標認識
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		1、2、3、4、6			
A 知識・理解力	オーストラリアやインターンの知識を理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる。				
C 論理的思考力	オーストラリアでのインターンに必要な情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
E 自己管理能力	自らを律して行動できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 30 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 60 %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストなどは行わない。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 時間内ですべて解決してゆく。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①海外インターン実習の意義、内容、今後のスケジュール(藤本)			配布資料に基づき予復習	60分	
②インターン実習の経費、収支についての説明(藤本)			配布資料に基づき予復習	60分	
③渡航手続(1)ワーキングホリディビザ・奨学金の説明、手続(齋藤)			配布資料に基づき予復習	60分	
④渡航手続(2)航空券、ホームステイ手配、旅行傷害保険、学研災の説明、手続(米田)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑤インターン実習の仕事の内容の説明、現地のくらし、宿所の説明(現地企業による)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑥渡航手続(3)誓約書作成			配布資料に基づき予復習	60分	
⑦オーストラリアの観光の実態(1)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑧オーストラリアの観光の実態(2)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑨日本人の訪豪の実態(1)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑩日本人の訪豪の実態(2)(オーストラリア政府観光局による)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑪現地企業とのマッチング			配布資料に基づき予復習	60分	
⑫現地企業とのマッチング			配布資料に基づき予復習	60分	
⑬実習中の目標設定(1)、連絡体制の確認			配布資料に基づき予復習	60分	
⑭実習中の目標設定(2)			配布資料に基づき予復習	60分	
⑮実習中の目標設定(3)			配布資料に基づき予復習	60分	
使用テキスト: なし			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): オーストラリア・インターン実習を成功させるかどうかは、この事前準備にかかっているといってもいいでしょう。少しでも疑問があれば教員に相談するなり、自分で調べるなり、しすべてを解決して実習に臨んでください。					